

平成17年度

財団法人8020推進財団歯科保健活動助成事業報告書

『自閉症児に対する歯科保健指導』

平成18年3月

財団法人サンスター歯科保健振興財団



目 次

1. 事業の目的

今年度の流れ

2. 事業内容

1) 実施組織とその役割分担

2) 自閉症児支援に対する支援方法の習学

3) 平成17年度モデル実施校における自閉症児への歯科保健指導

4) -1 対象児童の現状の把握、IEPミーティング(関係者会議) 指導目標の決定

4) -2 詳細結果報告書(実施場所:高槻市立某小学校)

4) 費用明細

3. まとめ及び今後の展開

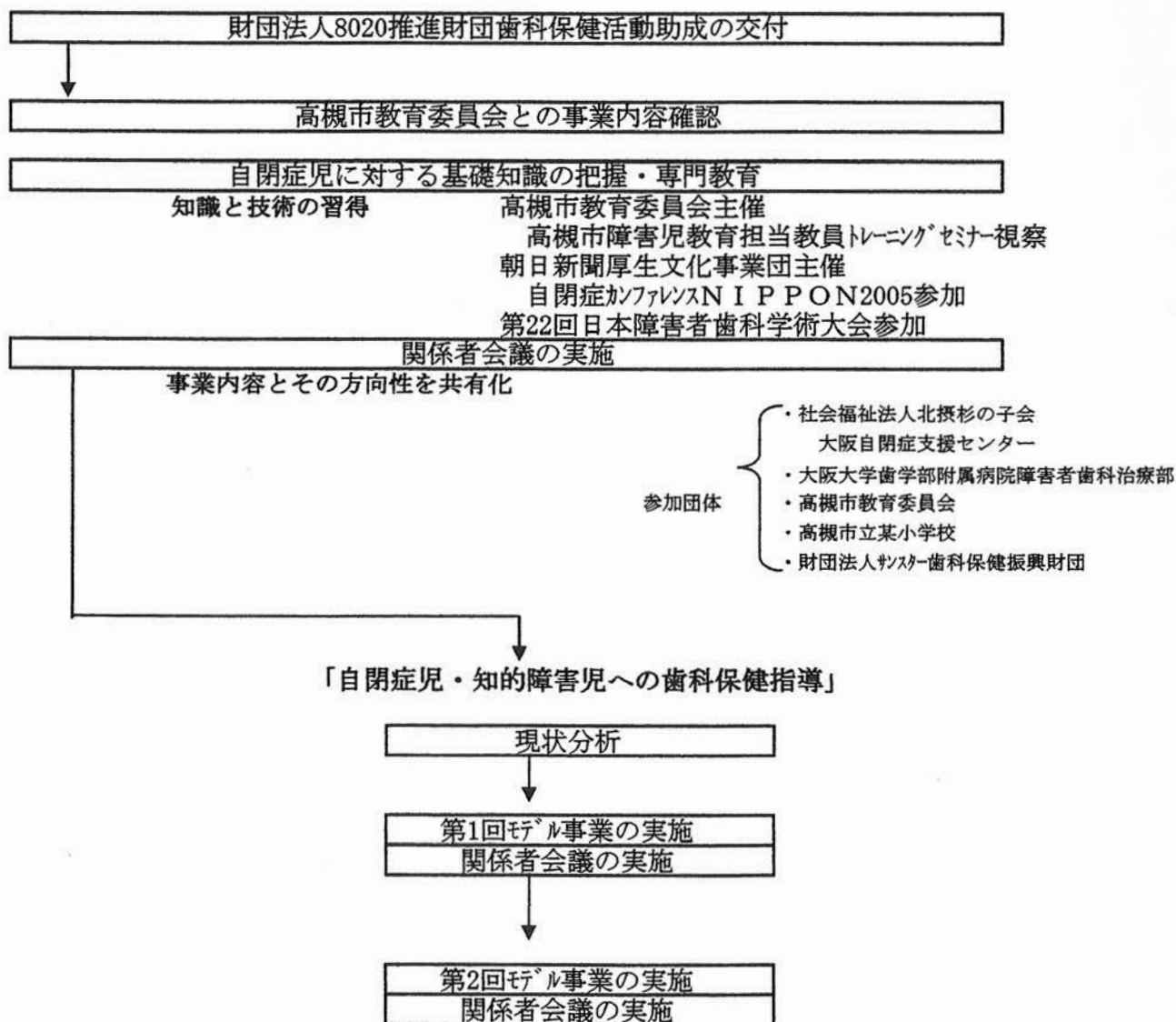
1. 事業の目的

知的障害のある子供のうち、特に初めての経験に困難を示す自閉症の子ども達に対して、口腔衛生の専門家である歯科医師・歯科衛生士と自閉症支援の専門療育スタッフと養護教諭及び障害児教育担当教員が、それぞれ3分野の研究成果を結集して障害のある子供達の歯科衛生の向上を図るものである。

本事業はモデル事業として展開するものであるが、これまで、こだわりが強く、歯磨きに対して不安をもっていた自閉症児が、本事業により手順を踏まえて丁寧に指導することで歯磨き習慣が確立できることを明らかにし、ひいては、小中学校に在籍する障害のある児童生徒の口腔衛生指導の充実に資するものである。

3年目の今回においては、過去に視覚支援をほとんど受けていない新規モデル校において自閉症児と知的障害のある児童に対して指導を実施し、視覚支援の有効性を確認するとともに歯科衛生士の指導の巾を広げる。

《今年度の流れ》



2. 事業内容

1) 実施組織とその役割分担

- ・ 社会福祉法人北摂杉の子会 大阪自閉症支援センター
障害児教育担当教員と連携のうえ、協力児童が口腔衛生指導を受けられるまでの児童への援助と本事業全般に対して指導を行なう。
- ・ 大阪大学歯学部附属病院障害者歯科治療部
本事業のスーパーバイザーを行なう。
- ・ 高槻市教育委員会
協力児童のプライバシー等個人情報の保護には十分配慮し、事業全般について各関係機関との調整を行なう。
- ・ 高槻市立某小学校
障害教育における本事業の意義を明確にしなが、協力児童が安心して口腔衛生指導を受けることができるよう十分な配慮を行なうとともに、協力児童の保護者との連携を図る。
- ・ 財団法人クスター歯科保健振興財団
自閉症児に対し歯磨きを中心とした口腔衛生指導の企画・立案・実施を行なう。

2) 自閉症児支援に対する支援方法の習学

平成17年 8月25. 26日	高槻市教育委員会主催 高槻市障害児教育担当教員トレーニングセミナー視察（於：磐手幼稚園）
8月27. 28日	朝日新聞厚生文化事業団主催 自閉症カンファレンスNIPPON2005参加（於：早稲田大学）
8月30. 31日	高槻市障害児教育担当教員トレーニングセミナー視察（於：三箇牧小学校）
10月15. 16日	第22回日本障害者歯科学会学術大会参加（於：山梨県アピオ甲府）

3) 平成17年度モデル事業実施校における歯科保健指導の対象者

平成17年8月 某小学校にて対象児童3名が決定（以下B君・S君・Mさんとする）

B君	小学5年生	養護学級に在籍	自閉症
S君	小学2年生	養護学級に在籍	Lowe症候群・自閉症傾向あり
Mさん	小学2年生	養護学級に在籍	知的障害

3) -1 対象児童の現状の把握、IEPミーティング（関係者会議） 指導目標の決定

* 事例対象者：B君

現状と課題

- ・ できること : 日常生活での簡単な会話・絵やカードからの指示内容の理解・模倣が得意。
- ・ できないこと : 書かれた単語の意味・時計を読むこと。
- ・ 歯みがきの状況 : 家庭：磨くときと磨かないときがある。磨くときは就寝前。
学校：口腔を6ブロックに分けためくり式の指示書を使用(図1)。過去は、1ブロック毎にハブラシを1本ずつ使って磨いていたが、ほとんど歯のあたっていない。現在はハブラシは手に持つが口は開かず、口の中には全く入らなかった。右手でハブラシを持ち、左手で頬の上からマッサージするように触り、上下前歯のみ直接

- さわっていた。指示書は自分でめくっているものの殆ど見ていない。先生が隣で行っているのを見て同じ箇所を指をあてていた。
- ・うがいは、普段から水分を口に入れるのを嫌がるためまったくできない。

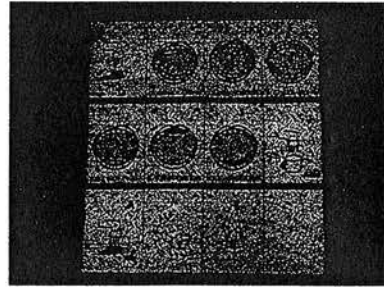
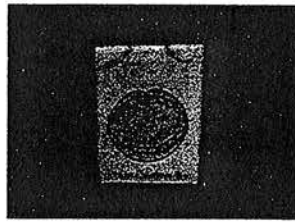


図1:めくり式の
歯磨きの部位を
6ブロックに分け
た指示書。

指導目標の設定

- ①ハブラシを口に入れ歯磨きができるようになる。
- ②うがいができるようになる。
- ③歯科健診が受けれるようになる。

指導方法の設定

- 目標①に対し…口を大きく開閉する指示書で口腔内の歯の存在を伝える。
歯磨部位を16ブロックに分けた指示書を使い、的確な視覚的支援を与え歯磨きの箇所と歯磨回数の増加を伝える。
- 目標②に対し…水を口にためる遊びと、頬を動かす指示書でうがいができるように促す。
- 目標③に対し…口を大きく開閉する指示書で口を大きく開ける練習をさせ口腔内にもものを入れる練習をする。

*事例対象者：S君

現状と課題

- ・できること : 視覚が弱く、聴覚優位でものごとを理解する。普段の支援は声かけ。
- ・できないこと : 大きな音（楽器の音・機械音）が聞こえると集中できない。
- ・歯みがきの状況 : 家庭：2～3回/日、仕上げ磨きを行っている。
学校：口腔を6ブロックに分けためくり式の指示書を使用しているが、全く見ず先生の声かけで磨く部位を変えている。磨いているのは、前歯の切端のみ。
- ・うがいは、がらがらうがいで、水を口の中にためて下を向いて吐くことはできないため、洗面台に水が飛び散る。

指導目標の設定

- ①すべての歯が磨けるようになる。
- ②歯科健診が受けれるようになる。
- ③うがいができるようになる。

指導方法の設定

- 目標①に対し…口を大きく開閉する指示書で口腔内の歯の存在を伝える。
歯磨部位を絵から写真に変えた6ブロックに分けた指示書を使い、具体物に近い視覚的な支援を与える。
- 目標②に対し…口を大きく開閉する指示書で口を大きく開ける練習をさせ、口腔内にデンタルミラーを入れることに慣れさせ、慣れれば他人が入れる。
- 目標③に対し…水を口にためる遊びと、頬を動かす指示書でうがいができるように促す。

*事例対象者：Mさん

現状と課題

- ・できること : 言葉で何をするのか理解できる。
- ・できないこと : 事柄の見通しを持ちにくい。
- ・歯みがきの状況 : 家庭：あまりしていない。
学校：口腔を6ブロックに分けためくり式の指示書を使用しているが、

6ブロックでは、ハブラシをどの部位に的確にあてるのかが分からないため咬合面以外は当たっていない。

- ・うがいは、水を口にためれるがブクブクと頬を動かすことはできない。

指導目標の設定

- ①ハブラシが当る箇所と回数を増やす。
- ②うがいの精度を高める。
- ③歯垢染色液で歯磨きの精度を高める。

指導方法の設定

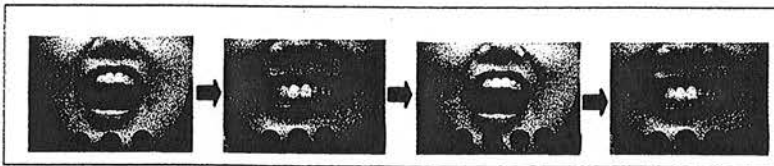
- 目標①に対し…口を大きく開閉する指示書で口腔内の歯の存在を伝える。
歯磨部位を12ブロックに増やした指示書を、1箇所にハブラシが当る回数を10回とする。
- 目標②に対し…水を口にためる遊びと、頬を動かす指示書でうがいができるように促す。
- 目標③に対し…歯垢染色液を用いて磨き残しを確認し、ハブラシで落とす。

4) -2 詳細結果報告書 (実施場所: 高槻市立某小学校)

*事例報告B君

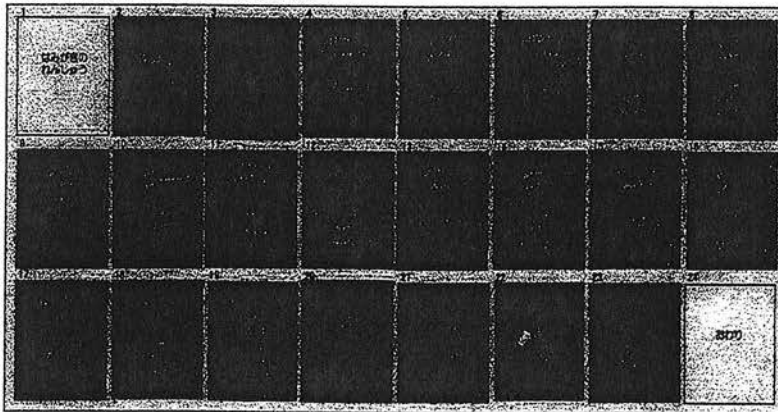
指導目標①ハブラシを口に入れ、歯磨きができるようになる。

(指示書1) 口の開閉の練習



口の開閉の写真を用いた1枚ものの指示書。目の前に鏡をみながら各写真5カウントずつ開口状態、閉口状態を保つ。

(指示書2) 歯磨きの練習



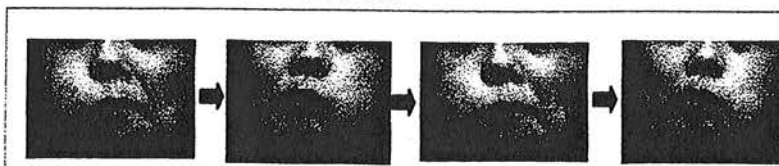
めくり式指示書(24枚)の内容。実際には、すべての写真の下部に指示書1と同じように赤丸を10個つけ、10回磨くように指示した。

【結果】

指示書1.2の結果、ハブラシが口に入るようになり、歯磨きも16箇所磨けるようになった。但し、うがいはしない。

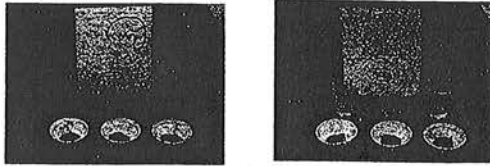
指導目標②うがいができるようになる。

(指示書3) 頬を動かす練習。



うがいの時の頬の動きを表した写真を用いた1枚ものの指示書。目の前に鏡を置き、各写真5カウントずつ模倣させる。

(指示書4) 水を口にため、吐き出させる練習。



赤い玉を口に入れ、手前の赤い場所に口で移す指示書と教材。
次に、奥のコップに水を入れ、手前の中敷を水色に塗り、口に水を入れ、手前の容器に水を運ぶように指示する。

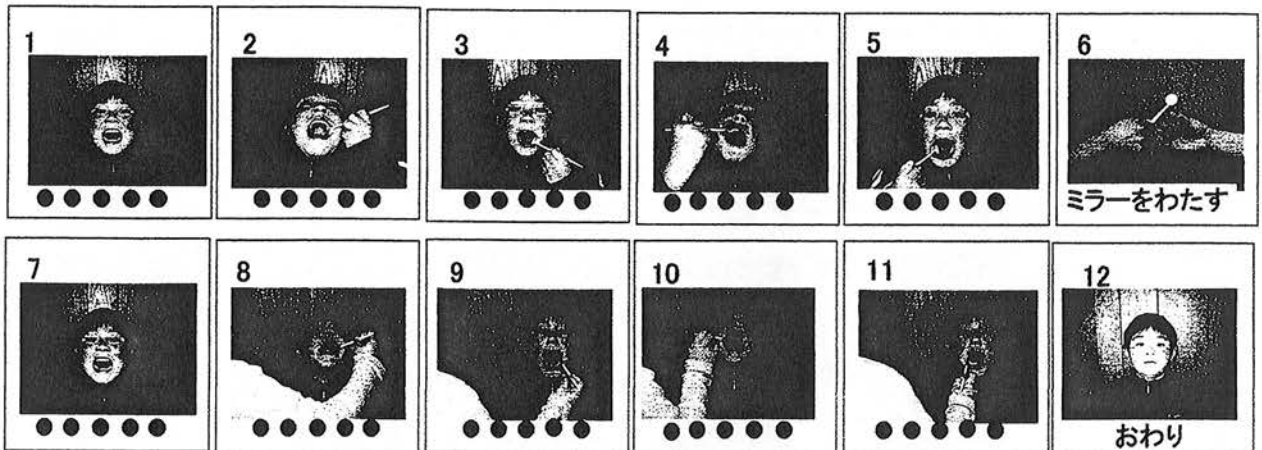
【結果】

模倣が得意なので、頬を動かすことは、上手くできた。
指示書4では、ボールを口で運ぶのは楽しんでしていたが、コップに水を入れると、口に入れた水を入れる必要性を理解し、指導場所から逃げてしまった。以後、これ以上無理強いせず、普段からタオルで口の中を拭く習慣があったため、その習慣を続けさせることとした。

指導目標③歯科健診が受けれるようになる。

事前練習：鏡に口を開閉している写真をはり、自分で鏡を持ちながら口を開閉の様子を鏡で見せる。

(指示書5) 口にデンタルミラーやライトを入れ、続いて、他人がミラーを入れるめくり式の12枚の指示書。



【結果】

自分で鏡を持ちながら、指示書の通りミラーを5カウントの間、口に入れる。
次に、担任教諭にミラーを渡し、口腔内を見せる。

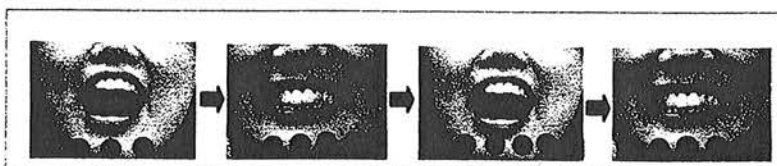
今後の指導

今まで、歯科健診を受けることができなかったため、特に指導目標③に重点を置き、口腔内にミラーを入れる人を、担当教諭以外の女性、さらに男性に変え、5月の学校検診受けられるように促す。

*** 事例報告S君**

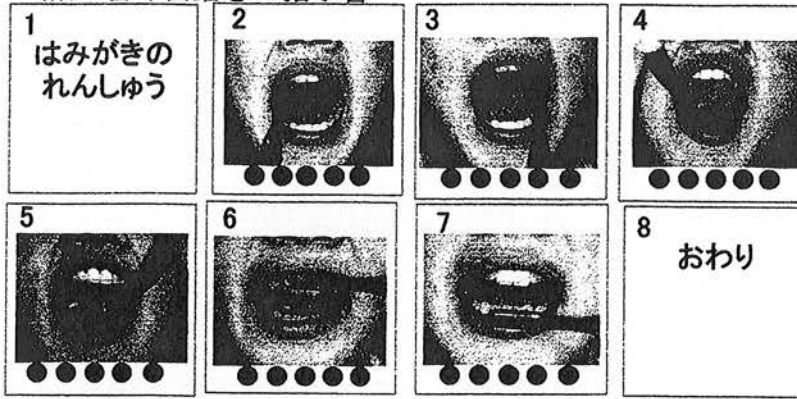
指導目標①すべての歯が磨けるようになる。

(指示書1) 口の開閉の練習



B君の指示書1と同じ。

(指示書6) 歯磨きの指示書



視覚から情報を読むことが苦手なため、理解しやすいように実際の口腔内の写真を使用しめくり式の8枚の指示書を使用。

【結果】

口の開閉の練習は、できたが、歯磨きに関しては、どうにか指示通りの場所にあたるものの、ハブラシの持ち変えは上手くいかない。先生が手を添えて支援する。

指導目標② 歯科健診が受けれるようになる。

事前練習：鏡に口を開閉している写真をはり、自分で鏡を持ちながら口を開閉の様子を鏡で見せる。次に、自分でミラーやライトを入れる練習をする。さらに、他人がミラーやライトを入れ、最後には寝た状態(knee to knee position)で歯科健診を受診できるようにする。
支援方法：視力が弱いため声かけで行う。



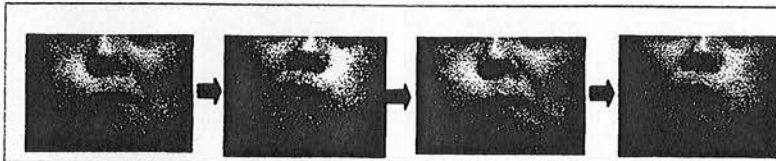
knee to knee position

【結果】

膝の上に寝転び、他人がミラーを口腔内に10秒、4回入れたが嫌がらずに受け入れた。今後この体位で仕上げ磨きを行うようにする。

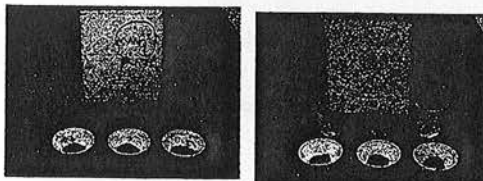
支援目標③ うがいができるようになる。

(指示書3) 頬を動かす練習。



B君の指示書3と同じ。

(指示書4) 水を口につめ、吐き出させる練習。



赤い玉を口に入れ、手前の赤い場所に口で移す教材。次に、奥のコップに水を入れ、口にコップの水をいれて手前の容器に水を入れる指示を口頭で与える。手前の中敷の下に絵を隠し、水を入れると絵が浮き上がるようにした。指導方法は口頭で行う。

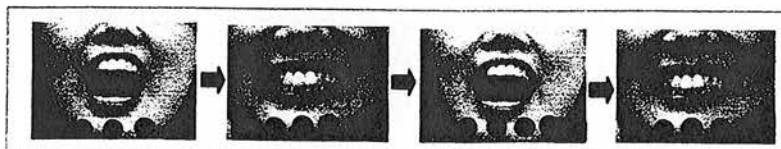
【結果】

頬の動きは写真と同様にでき、水を口につめることも指示書4で理解した。その結果、ブクブクうがいができるようになった。

* 事例報告Mさん

指導目標① ハブラシが当たる箇所と回数を増やす。

(指示書1) 口の開閉の練習



B君の指示書1と同じ。

(指示書2) 歯磨きの練習

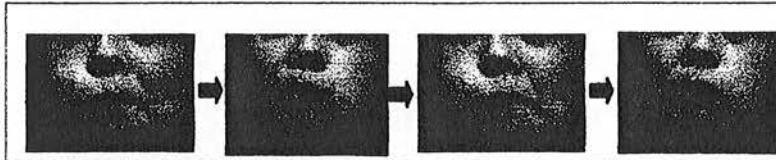
B君の指示書で、口蓋側と舌側が除いた12箇所の指示書を使用。さらに仕上げ磨きの指示書を2枚追加。

【結果】

知的障害と反対咬合のため、磨き難い部分もあるが、ある程度ハブラシをあてることができた。仕上げ磨きも嫌がらず、他人に磨かせることができた。

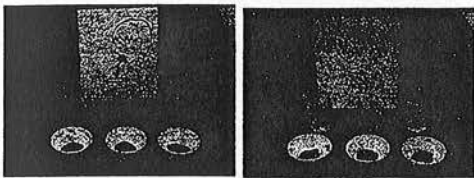
指導目標②うがいの精度を高める。

(指示書3) 頬を動かす練習。



B君の指示書3と同じ。

(指示書4) 水を口のため、吐き出させる練習。



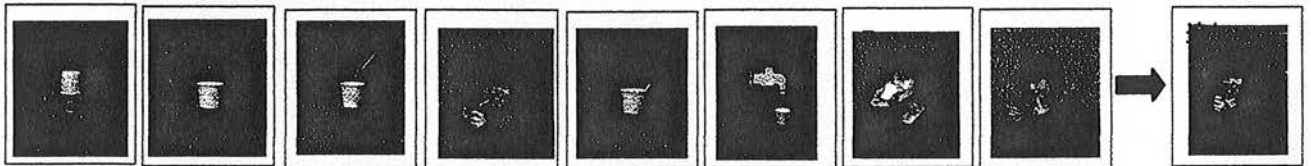
S君と同内容の指導。

【結果】

写真と同様の頬の動きはできなかったが、水を口のためることは直ぐに理解できた。しかし、日々の練習の中で最終的には、口に水をためながら、頬を動かすことができるようになった。

指導目標③歯垢染色液で歯磨きの精度を高める。

(指示書7) 歯垢染色をさせる指示書。(事前に担当教諭が行い、児童に見学させた。) 指導目標1の指示書の前に8枚の指示書を追加し、最後のうがいの前に磨き残しがないか確認させる指示書を、さらに1枚追加した。



【結果】

事前に、担当教諭が行った様子を確認していたため、スムーズに実施できた。今回は、ただ赤く染まったところを、ハブラシで落とすという行為のみを行ったが、今後は歯磨きの必要性も少し理解させたい。

6) 費用明細

平成17年度 事業の経費計画 1,548,920円

内容	単位：円	
	計画	実績
交通費	651,720	434,190
日当及び報酬費	330,000	211,656
歯科衛生士人件費	421,200	522,000
指導用教材及び備品	50,000	3,114
その他	96,000	58,136
総計	1,548,920	1,229,096

平成17年度 事業推進経費助成交付予算 1,000,000円

実績差異 ▲229,096円

3. まとめ及び今後の展開

<平成17年度のまとめ>

- ・本年度は、自閉症児においても、いままで殆ど視覚支援をうけていない児童や、その他の障害のある児童にも指導を行った。
その結果、視覚支援は今後、自閉症だけでなくさまざまな障害をもった人々に対し有効であることが、再確認できた。

<今後の展開>

引き続きこの事業は継続する事と考え次年度については以下の通りの展開の方向とする。

- ・平成15年・16年・17年度の指導結果をまとめ、歯科関係者だけでなくさまざまな自閉症を支援している人々へ情報を公開します。

以上